

小児口腔健康科学実習（仲井 雪絵）

Training of Pediatric Oral Health Sciences (Yukie Nakai)

キーワード

- ① 行動科学
- ② 成長・発達
- ③ 口腔保健
- ④ 口腔機能発達
- ⑤ 小児歯科臨床

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,④,⑤,⑥

授業概要

超少子超高齢化社会において、健康長寿をまっとうする条件の1つとして口腔健康が重要であることが学術的に示されている。特に、ライフステージの始まりである小児期から口腔機能を健全に育むことが、高齢期のフレイル予防に寄与するものとする。本実習では顎口腔器官の機能の健全な発育機序ならびにそれを阻害する因子について理解するとともに、出生前からの予防介入の意義に関する最新の情報を学ぶ。なお歯科医師免許を有する学生に対しては、小児歯科臨床に必要な知識と技能についても考慮する。

授業科目の学修目標

小児は未来の高齢者である。小児期に局限した健康科学ではなく、小児期は連続性をもったライフステージの始まりであることを認識し、小児歯科学的観点から課題を発見し、その課題解決のための方略を探索し実習を通して研究方法を立案するための知識・態度・技能を修得する。

授業計画

- ① 小児歯科臨床に関する基本的事項の理解と実践 20コマ
 - ② 地域における乳幼児歯科保健・母子保健の役割に関する理解と実践 8コマ
 - ③ 小児歯科における初診時からの診査・検査・診断・治療計画立案・介入評価 20コマ
 - ④ 小児歯科学研究計画立案実習 12コマ
- 実習担当教員 仲井雪絵 井上吉登 中村州臣 永塚綾野 中島知佳子

教科書および参考書

必要に応じて提示

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

小児歯科学に関する歯学部卒業レベルの知識、ならびに統計学の基本的知識を有していること。国内外の原著論文や総説論文、Reference manualを熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 小児歯科臨床に関する基本的事項を理解し実践できる
- ② 地域における乳幼児歯科保健・母子保健の役割を理解し実践できる
- ③ 小児歯科における初診時からの診査・検査・診断・治療計画立案・介入評価ができる
- ④ 課題を探索し小児歯科学的視点で研究計画の立案ができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	40%	0%	0%	40%	20%	0%

評価の要点

- レポート: 授業計画で行った4項目について課題を提出 10%×4回
- 口頭試問: 授業計画で行った4項目について課題提出時に実施 10%×4回
- 実技: 授業計画で行った4項目について達成度を判定 5%×4回

理想的な達成レベルの目安

理想的なレベルを80%以上とする。